



第63回宿南地区文化祭



11月17日(日)文化祭が開催され、午前は小学校の学習発表会があり、子供達の熱演に盛大な拍手が送られました。午後は芸能発表会が行なわれました。農林物産展では26種類92点の出展があり、その中から、金賞2点、池田頼之様(川東)白菜、片山勝義様(口三谷)富有柿が選ばれました。銀賞5点、銅賞10点も選ばれ午後の部の第1部で表彰及び発表が行なわれました。作品展にも多くの出展をいただきました。第2部芸能発表会に多くの方々に出演をいただき、大変盛りあがりました。その後、福引大会になりましたが多くの方に参加をしていただきました。各区文化、体育委員の皆様には大変お世話になりました。

人権学習会

189

11月24日(日)ふれあい倶楽部ホールで37人参加で開催されました。人権啓発ビデオ「君が、いるから」を鑑賞後、講師、戸田和代様の「自分らしく生きる～心のもち方」の講話を聞きました。



陽気ぐらし講座

11月29日(金)宿南ふれあい倶楽部ホールで、49人参加で開催されました。第1部は、講師 和田幸晴先生の講演「人生がワクワクする話」を聞き、第2部は、じろりん弾き語りライブを楽しみました。



大掃除

11月30日(土)ボランティアグループふれあい隊・花水木の会総勢36人でふれあい倶楽部年末大掃除をしていただきました。大変綺麗になりました。有難うございました。



お知らせ

12月22日(日)クリスマス会
年末年始休業日

12月20日(金)～1月15日(水)喫茶ひまわり

12月28日(土)～1月5日(日)自治協議会

12月30日(月)～1月3日(金)宿南ふれあいバス
喫茶ひまわり営業日

1月16日(木)～

1月16日(木)・1月20日(月)甘酒ふるまい



草庵先生紹介



日記 15



養老会には工夫された食事が出された。

宮崎和夫さん作

青谿書院(養父市八鹿町宿南)には、村の人たちが訪ねてくるだけではなく、池田草庵自身が書院に積極的に村の人たちを招くことがあった。年1回ではあるが地元、宿南村の老人たちを招いている。これは草庵が発案し、草庵が中心になって、村の人と相談しながら進めている。「養老会」と名付けていた。

「今日は村人相集い養老会をする。老人80歳以上のもの12人集まる。一日中忙しくあれこれ雑事。この日、また読書できず。この日、國屋松軒来てしばらくして帰る」(安政2<1855>年3月22日)

これは、養老会を初めて開いた日の日記で、草庵が青谿書院に来てから9年目のこと。草庵はこの会が終わった後、「養老会記」という文章を書いている。約480字からなる漢文で、会のねらいや意義、第1回の様子などが書かれている。

その「養老会記」のねらいの部分 요약すると —

「年寄りを大事にする養老の教えは、中国には孔子のいた時代からあった。徳川の時代になって、落ち着いた生活ができるようになったが、人々の間に徳が十分いきわたっているとは言えない。そこで私は、思いやりの心などの『徳の気持ち』を村の人たちの間に広めるため、万分の一の助にでもなればと願って、昔の中国の教えにならい養老会を開くことにした」養老会では宴会も大事なことであった。

「養老会記」には「会は決して堅苦しくならないようにして、老人が楽しく過ごせるように心づかいをした。会の中心である宴会は、食べ物は豪華なものではないが、老人の口に合うようなものを工夫し、酒は気分よくなるぐらいにした」との記述も。お年寄を慰勞する草庵の配慮がよく伝わってくる。

(提供 朝日新聞社)